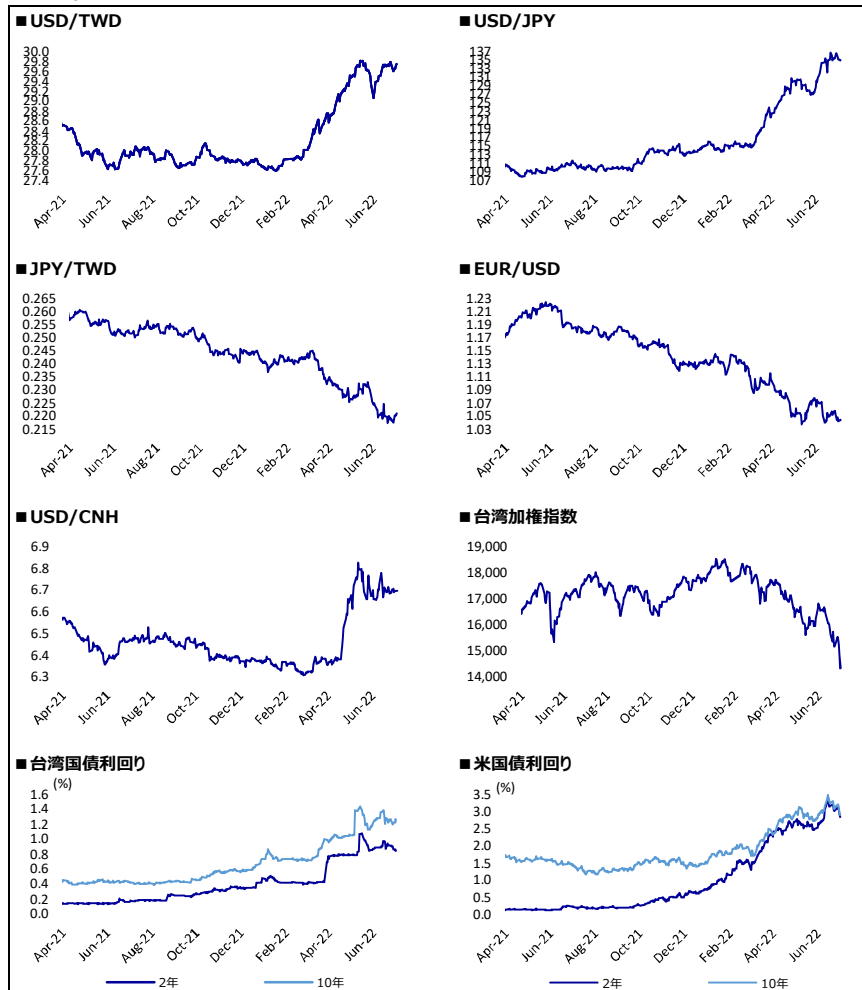


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/27は29.710でオープン後、台湾株が上昇する中、外国人投資家の台湾ドル買いが優勢となり、一時29.594をつけたが、29.600付近では底値が堅く、同水準のレンジで推移。6/28は台湾株が売られると外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となり29.66付近まで上昇したが、輸出企業のドル売りもあり上値は押さえられた。6/29は前日の米消費者信頼感指数の低下を受けて米株が下落したことから台湾株が下落すると台湾ドルは売られ、一時29.7台まで上昇。しかし、勢いは続かず29.68付近まで戻した。6/30は台湾加権指数が15,000ポイントを下回るとドル台湾ドルは一時29.75近くまで上昇。輸出企業が既にポジションを調整しており、月末ながらドル売りは少なく、底値は堅かった。7/1も台湾株が売られると台湾ドルも売られ、一時29.810をつけた。しかし、29.8を超えると台湾ドルは買い戻され、その後は29.77付近のレンジで推移。最終的に先週比0.1%ドル高台湾ドル安の29.755で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は400.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は直近高値を更新。週初6/27は135.28でオープン後、特段材料のない中、実需主導で円が買われ134.53まで下落。その後は欧州株が堅調に推移する中、リスクオンの流れとなり、ドル円は135円台半ばまで上昇。6/28は中国のコロナ規制緩和への期待感や欧州株高、米金利の上昇を背景にドルは買われ、136円台にのせた。6/29はECBの年次フォーラムにてパウエルFRB議長が「米経済は金融引き締めに対応できる」「物価安定の回復に失敗することがより大きな間違いだ」と目新しい内容ではなかったものの、改めてインフレへの対応を明確にしたことから、ドル円は買われ一時137.00をつけた。6/30は米金利の低下や軟調な株式相場を受けて一時136円を割り込み、PCEコアデフレーターが予想を下回ると米金利は低下し、米10年債の利回りが3週間ぶりに3%を下回るとドル円も下落し、135円台半ばに。7/1はリセッションへの警戒感が高まる中、米金利が低下するとドル円は134円台後半まで下落。その後、135円台半ばに戻したが、米6月ISM製造業景況指数が市場予想を下回ると再び下落し、134円台後半に。その後は米国が連休を控えてか、調整の動きから値を戻し、最終的に先週比ほぼ変わらずの135.22で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.650-29.900
世界的なリセッションへの警戒感から台湾株も下落が続いている。四半期末の6月が終えて、輸出企業のドル売り需要が落ち着く中、台湾ドル安の流れに注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：134.00-136.50
今週はFOMC議事要旨や米雇用統計等の経済指標の発表を控えている。FOMC議事要旨については、インフレ抑制への強い姿勢を再確認する内容でサプライズとなりにくいと見込むが、経済指標についてはリセッションへの警戒感が高まる中、弱い結果とな、リスクオフの円高の流れに注意したい。

今週の予定

7/4 (MON)	台湾6月外貨準備高、米国休場
7/5 (TUE)	台湾6月CPI
7/6 (WED)	米6月ISM非製造業景況指数、FOMC議事要旨
7/7 (THU)	米6月ADP雇用統計、米5月貿易収支
7/8 (FRI)	台湾6月貿易収支、米6月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。